

調査概要

◎調査名 じゃらん宿泊旅行調査2009

◎調査方法 インターネットによる調査

■1次調査

- ①調査目的 全国の宿泊旅行実施者を抽出することに加え、性・年代別の宿泊旅行実施率を知るために実施した。
- ②調査時期 2009年4月1日（水）～15日（水）
- ③調査対象 全国20～79歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）
- ④配信数 123,390件
- ⑤調査内容 昨年度1年間（2008年4月～2009年3月）の国内宿泊旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）の有無について
- ⑥回収数 60,000件（回収率48.6%）
- ⑦1次調査集計対象者数 20,000件
- ※2次調査において都道府県別、性・年代別の割付にあった回収が得られるように配信した。
- ・配信数と割付について
- 2次調査のセル別目標回収数は、H17国勢調査の都道府県別・性・年代別の人口に概ね従うように47都道府県を5ランクに分け、ランクごとに6：5：3：2：1の割合で、合計約1万4000件の回収を目標とした。
- ・2次調査の配布数は、ウェイトバック値のバランスをなるべく揃えるために、県別に均等割付ではなく、ランクを設けて割付を行った上で、1次調査の旅行実施者38,622件を都道府県ごとに分配し、サンプル数を割り付けて配信した。
- ※回収された60,000件のうち、都道府県別に割付を行い20,000件を抽出。性・年代別宿泊旅行実施率を算出。
- ⑧2次調査対象者数 38,622件

■2次調査

- ①調査目的 全国の宿泊旅行実施者に対して、宿泊旅行の内容を知るために実施した。
- ②調査時期 2009年4月7日（火）～16日（木）
- ③調査対象 ・1次調査において、昨年度1年間に国内宿泊旅行をした、と回答した人：38,622件
- ・追加調査において、昨年度1年間に国内宿泊旅行をした、と回答した人のうち、調査協力が得られた60歳以上の家族本人：1,238件
- ※今回は調査回収難度が高い60歳以上の回収数を上げるために追加調査を実施。追加調査は株式会社マクロミルの登録モニターのうち60歳以上の家族と同居しているモニターを対象として該当家族が同席する上で回答という条件で実施した。
- ④配信数 22,209件（うち、同居家族モニター213件）
- ※配信数は対象者の中から都道府県別、性・年代別の割付にあわせてランダムに抽出した。
- ⑤調査内容 昨年度1年間に実施したすべての宿泊旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）の行き先と回数について、また1人最大3件までの個別宿泊旅行について、具体的な内容を調査した。
- ⑥回収数 13,971件（回収率62.9%）
- ⑦有効回答数 13,961件（うち、同居家族モニター100件）

※集計・分析手法について

はじめに平成20年10月1日現在推計人口（総務省統計局発表）および1次調査結果を用いて、全国の宿泊旅行者の母集団を推計した。次に、2次調査の集計・分析にあたり、推計された宿泊旅行者の母集団における都道府県別、性・年代別構成比に基づいてウェイトバックを行い、構成比のずれを補正している。

また今回は60歳以上の登録モニター数が少ない道府県について、60歳以上の家族と同居している登録モニターに代理回答を実施、2次調査の調査対象として追加した。

◇じゃらんリサーチセンターの概要

「じゃらんリサーチセンター」は、国をはじめ地方自治体、観光関連事業者にとって、すぐに使える情報を広く提供し、かつ、日本の観光振興にさまざまな切り口から提案を行うことで、新しい観光ムーブメントを創出し、観光産業全体のさらなる活性化に寄与することを狙いとし、2005年8月より、株式会社リクルート旅行カンパニー内に設置されている組織です。

昨年度1年間(2008年4月～2009年3月)の全国の宿泊旅行※1者数は、延べ約1億7,400万人(昨年比0.9%減)。延べ宿泊数は約2億9,200万泊(昨年比1.2%減)であり、延べ宿泊旅行者数・延べ宿泊数ともに、昨年と比べて微減となった。

昨年度1年間に宿泊旅行を行った人の割合は63.8%→63.1%と3年連続で微減傾向、宿泊旅行実施者の年間平均旅行回数は2.83回→2.84回とほぼ横ばい。この結果、延べ宿泊旅行者数は159万人減(昨年比0.9%減)と微減した。また宿泊旅行実施者の1回の旅行あたり平均宿泊数は1.69泊→1.68泊と、前年とほぼ横ばいとなったため延べ宿泊数も369万泊(昨年比1.2%減)の減少となっている。宿泊旅行実施者の年間平均旅行回数、平均宿泊数は横ばいだが、旅行実施率が微減した。

※1 宿泊旅行・・・国内での宿泊を伴う旅行で、出張・帰省・修学旅行などを除く。

◇延べ宿泊旅行者数の推計方法

	H20.10.1現在推計人口	調査結果			推計値		
	人口 (万人) <A>	宿泊旅行実施率 (%) 	宿泊旅行実施者の年間平均旅行回数 (回) <C>	宿泊旅行実施者の1回の旅行あたり平均宿泊数 (泊) <D>	実宿泊旅行者数 (万人) A*B	延べ宿泊旅行者数 (万人回) A*B*C	延べ宿泊数 (万泊) A*B*C*D
20～34歳 / 男性	1,212	60.6	2.69	1.75	734	1,975	3,456
20～34歳 / 女性	1,163	66.8	2.67	1.62	777	2,074	3,359
35～49歳 / 男性	1,300	59.6	2.69	1.75	775	2,084	3,648
35～49歳 / 女性	1,280	58.7	2.47	1.61	751	1,856	2,988
50～79歳 / 男性	2,267	63.2	3.08	1.68	1,433	4,414	7,415
50～79歳 / 女性	2,466	66.5	3.02	1.69	1,640	4,952	8,369
↓上記セルの合計							
[09年]全国20～79歳男女	9,688	63.1	2.84	1.68	6,110	17,355	29,235
[08年]全国20～79歳男女	9,707	63.8	2.83	1.69	6,196	17,514	29,604
[07年]全国20～79歳男女	9,686	64.7	2.77	1.69	6,269	17,366	29,325
[06年]全国20～79歳男女	9,722	66.1	2.78	1.72	6,424	17,875	30,856
[05年]全国20～79歳男女	9,707	65.4	2.73	1.68	6,350	17,343	29,024

※推計値の算出は四捨五入していない実データで行っています。

※人口について、下記の統計値を用いて調査を行っています。

2009年 : H20年10月1日現在推計人口
 2008年 : H19年10月1日現在推計人口
 2007年 : H17年10月1日現在国勢調査人口
 2006年 : H16年10月1日現在推計人口
 2005年 : H15年10月1日現在推計人口

延べ宿泊旅行^{※1}者数、延べ宿泊数ともに、50～79歳男女が、全体の半数強を占めている。50～79歳女性層において、宿泊旅行実施率は調査開始の05年以降減少傾向が続いている。

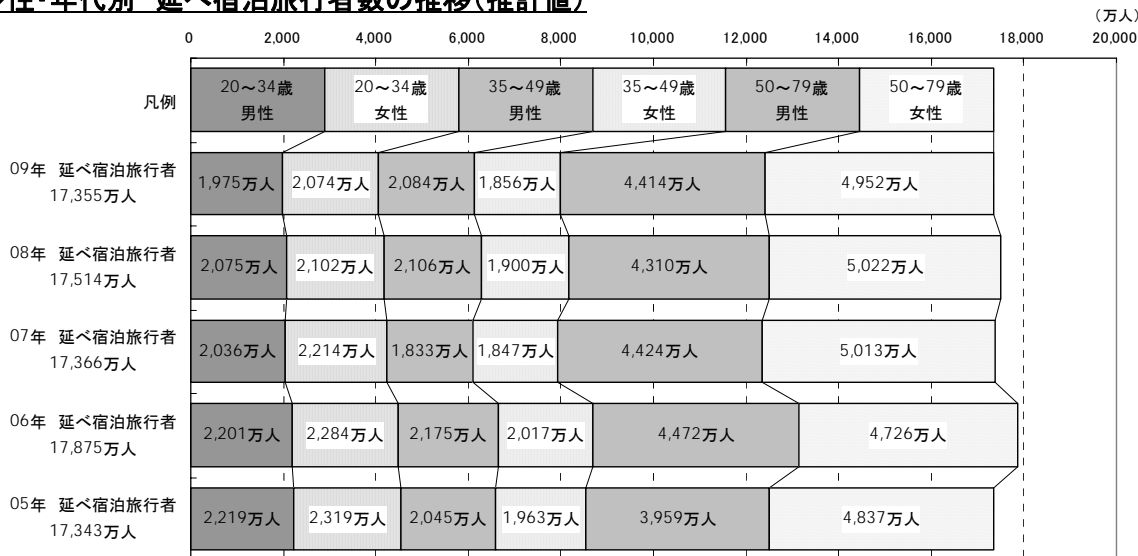
延べ宿泊旅行者数、延べ宿泊数ともに、50～79歳の層が54%を占めている。宿泊旅行実施率を見ると50～79歳女性の層において、調査開始の05年以降、減少傾向が続いている。

※1 宿泊旅行・・・国内での宿泊を伴う旅行で、出張・帰省・修学旅行などを除く。

◇性・年代別 宿泊旅行実施率の推移

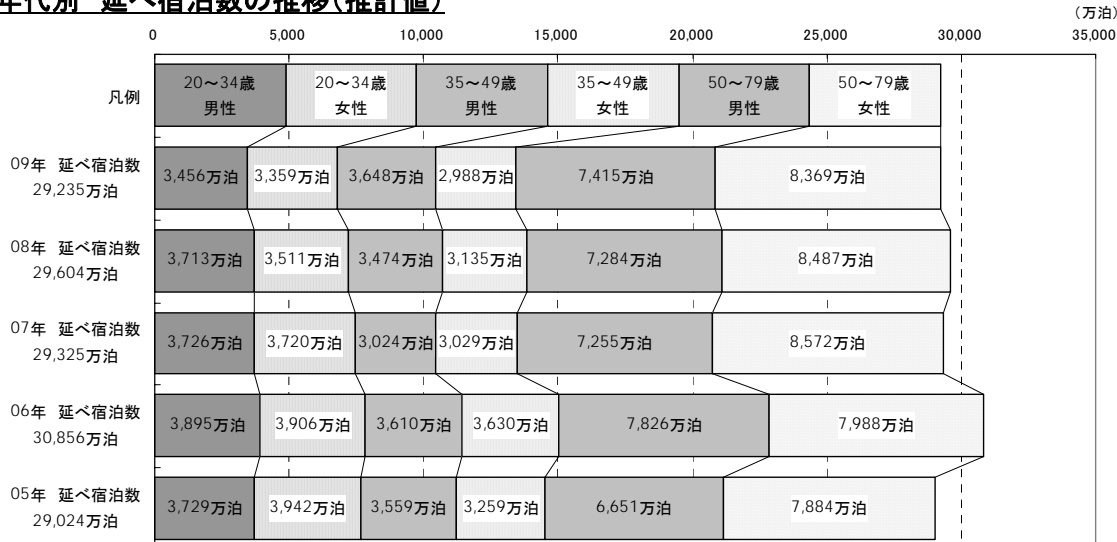
	09年					08年					07年					06年					05年				
全体	63.1	63.8	64.7	66.1	65.4	63.1	63.8	64.7	66.1	65.4	63.1	63.8	64.7	66.1	65.4	63.1	63.8	64.7	66.1	65.4	63.1	63.8	64.7	66.1	65.4
男性	61.6	62.7	62.6	64.4	62.9	61.6	62.7	62.6	64.4	62.9	61.6	62.7	62.6	64.4	62.9	61.6	62.7	62.6	64.4	62.9	61.6	62.7	62.6	64.4	62.9
女性	64.5	64.9	66.8	67.7	67.8	64.5	64.9	66.8	67.7	67.8	64.5	64.9	66.8	67.7	67.8	64.5	64.9	66.8	67.7	67.8	64.5	64.9	66.8	67.7	67.8
20～34歳 / 全体	63.6	64.0	64.0	64.0	65.2	63.6	64.0	64.0	64.0	65.2	63.6	64.0	64.0	64.0	65.2	63.6	64.0	64.0	64.0	65.2	63.6	64.0	64.0	64.0	65.2
35～49歳 / 全体	59.2	59.5	60.9	63.5	62.2	59.2	59.5	60.9	63.5	62.2	59.2	59.5	60.9	63.5	62.2	59.2	59.5	60.9	63.5	62.2	59.2	59.5	60.9	63.5	62.2
50～79歳 / 全体	64.9	66.1	67.1	68.6	67.2	64.9	66.1	67.1	68.6	67.2	64.9	66.1	67.1	68.6	67.2	64.9	66.1	67.1	68.6	67.2	64.9	66.1	67.1	68.6	67.2

◇性・年代別 延べ宿泊旅行者数の推移(推計値)



※推計値の算出は四捨五入していない実データで行っています。

◇性・年代別 延べ宿泊数の推移(推計値)



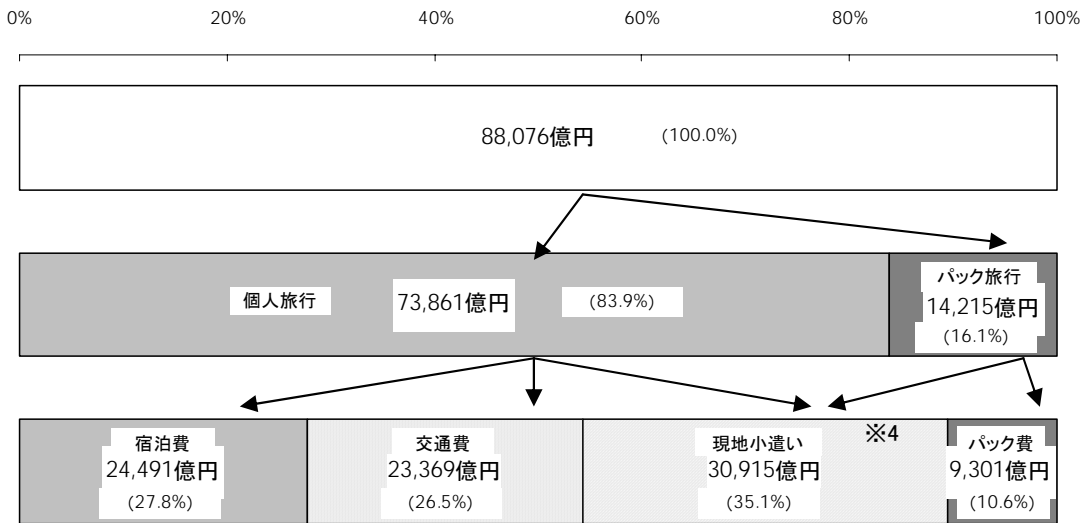
※推計値の算出は四捨五入していない実データで行っています。

全国の宿泊旅行にかけられた費用総額は約8.8兆円で、昨年と比べて増加した。1回(大人1人あたり)の宿泊旅行にかけた費用はアップし4年ぶりに5万円台に。

1回あたりの宿泊旅行にかかる費用※2が4年ぶりに増加し、49,500円→50,600円と調査開始05年と同額の5万円台に戻った。内訳を見てみると、個人旅行※3における宿泊費が15,200円→16,100円に増加し、パック旅行におけるパック費が41,800円→42,700円に、現地小遣い※4も全旅行者平均17,500円→17,800円とやや増加した。この結果、延べ宿泊旅行者数は昨年より減少したが、費用総額は増加した。

※2 1回の宿泊旅行にかけられた1人あたり平均費用・・・1回の宿泊旅行にかけた費用について、個人旅行の場合、1人あたりの宿泊費・交通費・現地小遣いの合計、パック旅行の場合、1人あたりのパック費・現地小遣いの合計。
20歳未満の子供を連れた旅行の場合は、全員でかかった費用を同行した大人の数で割っている。
※3 個人旅行・・・個人で宿を手配した旅行で、旅行会社を通して宿を手配した場合も含む。

◇宿泊旅行にかけられた費用総額(推計値)



※4 現地小遣い・・・旅行先での飲食・買い物、遊興費、目的エリア内での移動費用を含む。

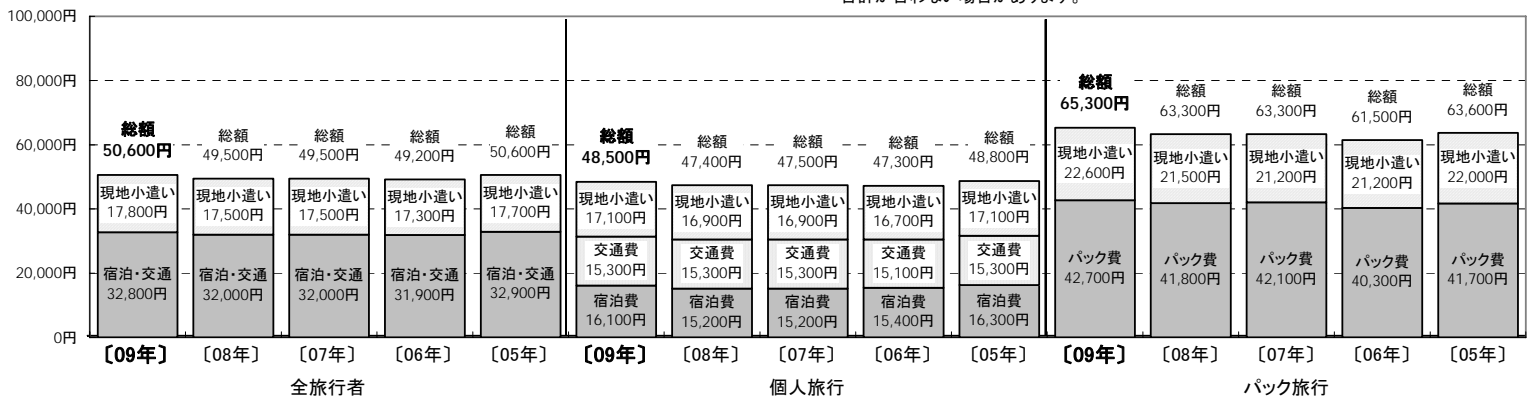
〈参考〉

05年～09年比較宿泊旅行にかけられた費用総額(推計値)

宿泊旅行にかけられた費用の総額	
09年	88,076
08年	86,781
07年	86,180
06年	87,889
05年	87,835

◇1回の宿泊旅行にかかる費用(大人1人あたり)

※金額については、百の位までの四捨五入で示しているため、合計が合わない場合があります。



〈全国の宿泊旅行費用総額の推計方法〉

- ①集計データより全国の性・年代別の個人旅行とパック旅行の延べ宿泊旅行者数を推計
- ②全国の性・年代・手配方法(個人orパック)別の旅行費用の平均値(単価)を算出
- ③全国の性・年代・手配方法別の延べ宿泊旅行者数に単価を乗じ、性・年代・手配方法別の費用総額を算出
- ④性・年代別の費用総額の結果を積み上げて全国の宿泊旅行費用総額を算出

〈参考〉性・年代別 宿泊旅行の手配方法(単一回答)

※ベース:延べ宿泊旅行件数 (%)

	個人旅行					パック旅行					
	[09年]	[08年]	[07年]	[06年]	[05年]	[09年]	[08年]	[07年]	[06年]	[05年]	
全体	87.5	86.9	86.9	86.7	87.4	12.5	13.1	13.1	13.3	12.6	
20～34歳	男性	91.2	90.7	91.0	90.9	91.9	8.8	9.3	9.0	9.1	8.1
	女性	88.0	86.6	86.8	87.4	87.0	12.0	13.4	13.2	12.6	13.0
35～49歳	男性	91.9	91.3	91.3	91.5	91.5	8.1	8.7	8.7	8.5	8.5
	女性	88.1	88.4	88.4	87.4	88.4	11.9	11.6	11.6	12.6	11.6
50～79歳	男性	88.3	87.9	88.1	87.6	88.5	11.7	12.1	11.9	12.4	11.5
	女性	82.9	82.1	81.8	81.3	82.6	17.1	17.9	18.2	18.7	17.4

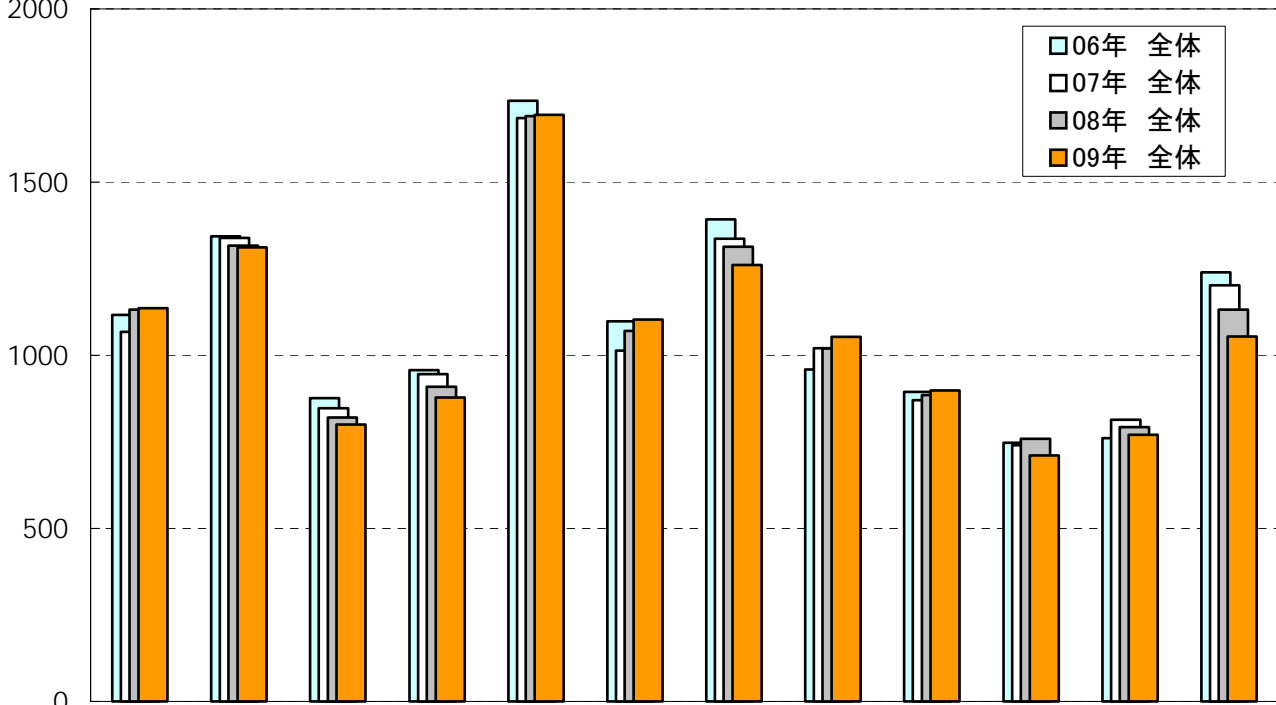
月別旅行件数の推移を見ると、現段階では、国内宿泊旅行市場においては、景気変動の影響はあまり見られなかった。

年々減少傾向にある5月～7月、10月、2月～3月は今回もさらに減少傾向が進み、一方、年々増加傾向にある4月、8月、11月～12月も同様に旅行件数を伸ばした。北京オリンピックが開催された08年8月も旅行件数を伸ばし、9月15日リーマン・ブラザーズ経営破綻以降の世界同時株安、円急騰などが報道されたあとの11月、12月は旅行件数を伸ばしているなど、市場に対する景気の影響は小さかったものと考えられる。

※出張・帰省・修学旅行等による宿泊旅行は含まない。

◇宿泊旅行の時期(旅行件数の推移)

(万件)

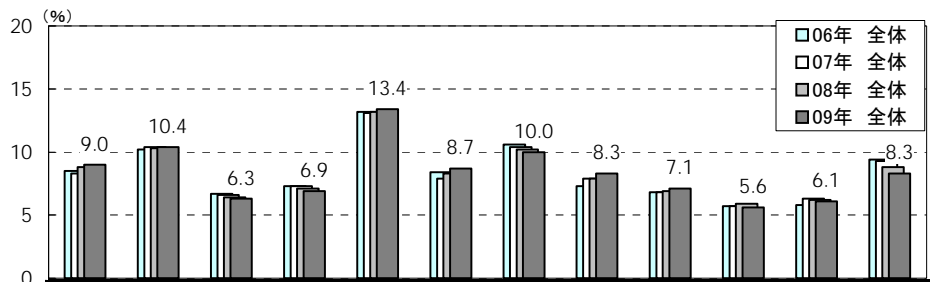


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
09年 全体	1,136	1,312	800	878	1,694	1,103	1,261	1,053	898	711	770	1,054	12,670
08年 全体	1,132	1,316	820	909	1,690	1,070	1,313	1,019	885	759	792	1,132	12,836
07年 全体	1,067	1,338	847	945	1,685	1,013	1,337	1,020	870	740	813	1,202	12,878
06年 全体	1,116	1,343	876	957	1,735	1,098	1,392	959	894	747	761	1,239	13,119

※図表の表側は調査年であり、調査対象は前年度の4月～3月までの旅行を示す。

<参考>宿泊旅行の時期(構成比の推移)

<ベース:延べ宿泊旅行件数>



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
09年 全体	9.0	10.4	6.3	6.9	13.4	8.7	10.0	8.3	7.1	5.6	6.1	8.3	100.0
08年 全体	8.8	10.3	6.4	7.1	13.2	8.3	10.2	7.9	6.9	5.9	6.2	8.8	100.0
07年 全体	8.3	10.4	6.6	7.3	13.1	7.9	10.4	7.9	6.8	5.7	6.3	9.3	100.0
06年 全体	8.5	10.2	6.7	7.3	13.2	8.4	10.6	7.3	6.8	5.7	5.8	9.4	100.0

延べ宿泊旅行者数の多い旅行先と、宿泊旅行にかけられた費用総額の多い旅行先は、昨年と同様の顔ぶれが上位に並ぶ。

静岡県への延べ宿泊旅行者数は、前年5位から3位にランクアップ。

延べ宿泊旅行者数の多い旅行先、宿泊旅行にかけられた費用総額の多い旅行先のトップ10の顔ぶれは、昨年と変わらなかったものの、延べ宿泊旅行者数では、静岡県が前年5位から3位に浮上。静岡県の延べ宿泊旅行者数は約25万人増で2年連続増加している。

費用総額の増加額ランキングでは、2年連続で沖縄県が2位にランクインしている。

※出張・帰省・修学旅行などによる宿泊旅行は含まない。

※ 1回の旅行において複数の都道府県に宿泊した場合、それぞれの都道府県に旅行回数1回とカウントしている。

◇都道府県別の延べ宿泊旅行者数(推計値)

※上位10都道府県

全体					
2009年 推計値	順位変動	2008年 推計値	2007年 推計値	2006年 推計値	2005年 推計値
1位 東京都	1,734万人	← (1位 1,770万人)	(1位 1,610万人)	(1位 1,629万人)	(1位 1,589万人)
2位 北海道	1,201万人	← (2位 1,224万人)	(2位 1,298万人)	(2位 1,376万人)	(2位 1,454万人)
3位 静岡県	961万人	↑ (5位 936万人)	(4位 877万人)	(4位 986万人)	(4位 942万人)
4位 長野県	914万人	↓ (3位 981万人)	(3位 946万人)	(3位 1,009万人)	(3位 1,063万人)
5位 神奈川県	860万人	↓ (4位 959万人)	(5位 823万人)	(5位 887万人)	(5位 879万人)
6位 大阪府	744万人	↑ (7位 719万人)	(7位 752万人)	(7位 727万人)	(7位 678万人)
7位 京都府	740万人	↓ (6位 760万人)	(6位 767万人)	(6位 754万人)	(6位 749万人)
8位 千葉県	702万人	← (8位 693万人)	(8位 659万人)	(8位 670万人)	(8位 650万人)
9位 兵庫県	546万人	← (9位 576万人)	(9位 587万人)	(10位 574万人)	(10位 530万人)
10位 沖縄県	545万人	← (10位 540万人)	(12位 493万人)	(12位 521万人)	(14位 453万人)

◇宿泊旅行にかけられた費用総額(推計値)

※上位10都道府県

全体					
2009年 推計値	順位変動	2008年 推計値	2007年 推計値	2006年 推計値	2005年 推計値
1位 東京都	11,763億円	← (1位 11,992億円)	(1位 10,950億円)	(1位 11,013億円)	(1位 11,769億円)
2位 北海道	8,525億円	← (2位 8,632億円)	(2位 9,053億円)	(2位 9,664億円)	(2位 9,992億円)
3位 沖縄県	5,586億円	← (3位 5,344億円)	(3位 4,661億円)	(3位 5,097億円)	(5位 4,244億円)
4位 京都府	4,464億円	← (4位 4,351億円)	(4位 4,510億円)	(4位 4,471億円)	(4位 4,292億円)
5位 大阪府	4,016億円	↑ (6位 3,833億円)	(5位 3,943億円)	(5位 3,885億円)	(7位 3,798億円)
6位 神奈川県	3,709億円	↓ (5位 4,127億円)	(7位 3,546億円)	(7位 3,566億円)	(6位 3,823億円)
7位 静岡県	3,466億円	↑ (8位 3,385億円)	(8位 3,219億円)	(8位 3,436億円)	(8位 3,774億円)
8位 長野県	3,462億円	↓ (7位 3,716億円)	(6位 3,857億円)	(6位 3,870億円)	(3位 4,452億円)
9位 千葉県	3,324億円	← (9位 3,262億円)	(9位 3,074億円)	(10位 3,252億円)	(9位 3,089億円)
10位 福岡県	2,780億円	← (10位 2,668億円)	(10位 2,949億円)	(12位 2,495億円)	(11位 2,371億円)

〈参考〉延べ宿泊旅行者増加数(推計値)

※上位5都道府県

	08年→09年増加数	07年→08年増加数	06年→07年増加数
1位	愛知県 41万人	東京都 160万人	新潟県 47万人
2位	岩手県 37万人	神奈川県 136万人	三重県 44万人
2位	宮崎県 37万人	静岡県 59万人	福岡県 37万人
4位	大阪府 26万人	沖縄県 48万人	山形県 32万人
5位	静岡県 25万人	山梨県 35万人	熊本県 25万人
5位		長野県 35万人	

〈参考〉費用総額増加額(推計値)

※上位5都道府県

	08年→09年増加額	07年→08年増加額	06年→07年増加額
1位	広島県 243億円	東京都 1,042億円	福岡県 454億円
2位	沖縄県 242億円	沖縄県 683億円	新潟県 292億円
3位	愛知県 206億円	神奈川県 581億円	和歌山県 205億円
4位	大阪府 184億円	岐阜県 189億円	群馬県 186億円
5位	大分県 178億円	千葉県 188億円	鳥取県 155億円

〈都道府県別の宿泊旅行費用総額の推計方法〉

- ①集計データより、都道府県別に、性・年代別の個人旅行とパック旅行の延べ宿泊旅行者数を推計
- ②都道府県別に、性・年代・手配方法(個人orパック)別の旅行費用の平均値(単価)を算出
- ③都道府県別に、性・年代・手配方法別の延べ宿泊旅行者数に単価を乗じ、性・年代・手配方法別の費用総額を算出
- ④都道府県別の費用総額について、性・年代別の費用総額の結果を積み上げて算出

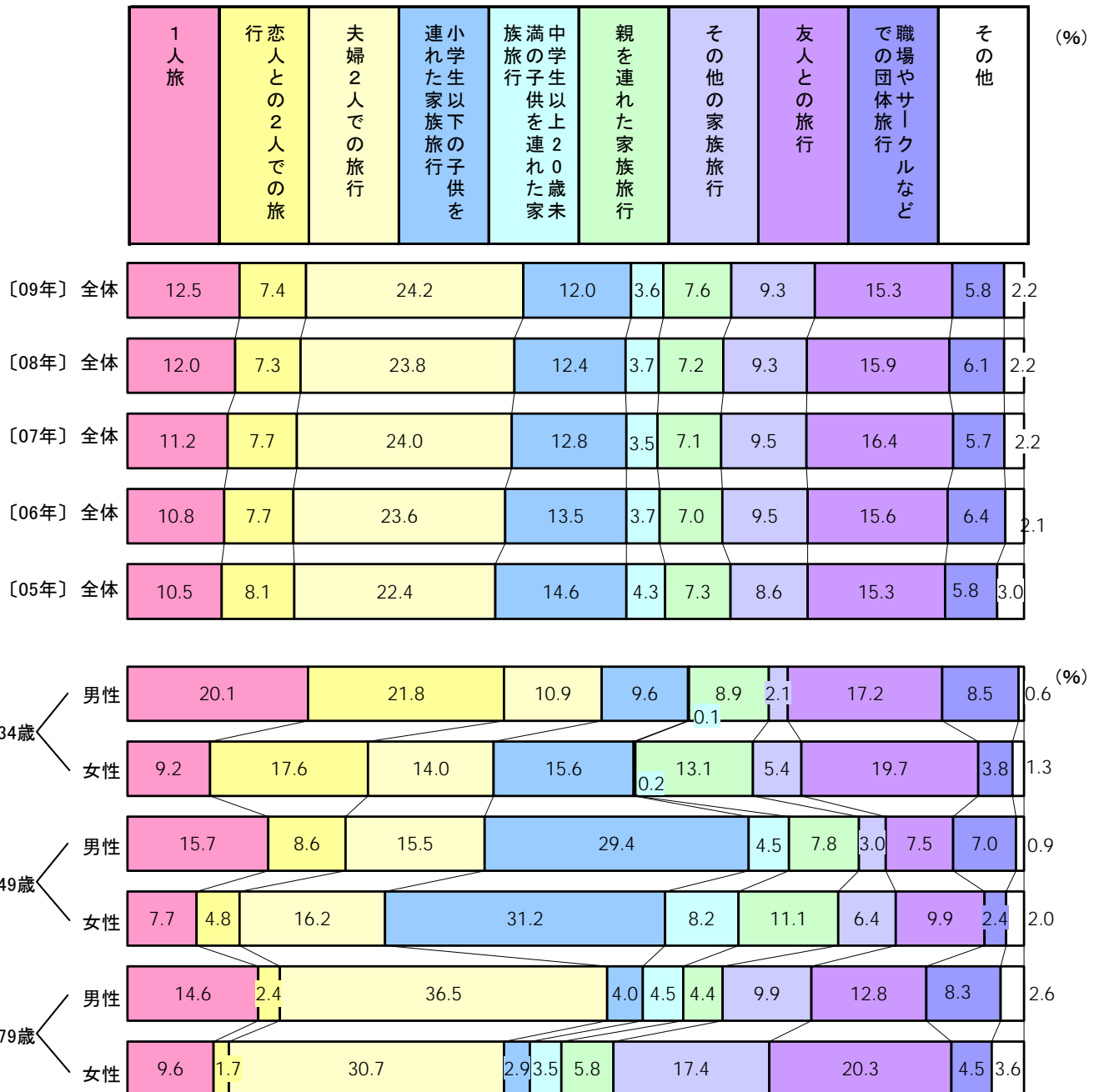
調査開始以来引き続き「小学生以下の子供を連れた家族旅行」が減少し、「一人旅」が増加したことで、初めて、その比率が逆転した。

全体的な構成比率の傾向は変わらず、最も割合が高いのは「夫婦二人での旅行」となっている。経年で見ると、「小学生以下の子供連れ家族旅行」は12%で年々減少傾向にあり、年々増加傾向にあった「一人旅」の比率が12.5%に増加したことで、05年の調査開始以来初めて、その比率を上回った。

※出張・帰省・修学旅行などによる宿泊旅行は含まない。

◇宿泊旅行の同行形態

<ベース:延べ宿泊旅行件数>



■地元ならではのおいしい食べ物が多かった

(単位: %)

－ 1位: 沖縄県、2位: 高知県、3位: 香川県

「沖縄そば」をはじめとして「ゴーヤチャンプル」、「ラフテー」など郷土料理が多数あげられた沖縄県が第1位に。

次いで、高知県では「カツオのタタキ」、香川県では「讃岐うどん」が圧倒的に支持されている。

全体の傾向として、刺身・魚介類一般・カニ・ウニ・エビなど、地元でとれる新鮮な海の幸をあげる声が多い。また、全国共通で「そば」「ラーメン」「うどん」等ご当地麺類があげられている。「飛騨牛」「神戸牛」など各地のブランド食材や、郷土料理も見られた。

2009年 順位	
全体平均	54.1
1位 沖縄県	72.0
2位 高知県	71.5
3位 香川県	70.8
4位 鹿児島県	69.9
5位 北海道	69.8
6位 福井県	69.2
7位 宮城県	68.2
8位 山形県	67.6
9位 長崎県	67.4
10位 青森県	66.5

2008年 順位	
全体平均	54.2
1位 香川県	72.9
2位 高知県	72.8
3位 北海道	69.5
4位 鹿児島県	69.1
5位 沖縄県	68.4
6位 福井県	67.5
7位 宮城県	67.2
8位 石川県	66.9
9位 静岡県	65.3
9位 福岡県	65.3

■魅力のある特産品や土産物が多かった

(単位: %)

－ 1位: 沖縄県、2位: 鹿児島県、3位: 京都府

第1位は、独特の文化を感じさせる沖縄県。

次いで、昨年4位からランクアップした鹿児島県、日本の伝統文化を感じさせる京都府が続く。

第1位となった沖縄県では「泡盛」「ちんすこう」「琉球ガラス」など沖縄ならではの特産品が並ぶ。第2位にランクアップした鹿児島県では、「さつま揚げ」「焼酎」「かるかん」などご当地お菓子があげられた。第3位京都府では「漬物」「八ツ橋」などがあげられ、有名な特産品を持つ都道府県が上位にきている。全体の傾向として、お菓子や海産品などをあげる声が目立った。

2009年 順位	
全体平均	41.6
1位 沖縄県	68.9
2位 鹿児島県	59.9
3位 京都府	59.6
4位 高知県	58.9
5位 長崎県	57.0
6位 北海道	56.1
7位 青森県	53.1
8位 宮城県	52.2
9位 石川県	50.7
10位 宮城県	49.9

2008年 順位	
全体平均	41.5
1位 沖縄県	66.1
2位 京都府	60.7
3位 北海道	55.8
4位 鹿児島県	55.2
5位 長崎県	54.6
6位 宮城県	54.2
7位 高知県	51.5
8位 佐賀県	49.1
9位 広島県	49.0
10位 香川県	48.9

■魅力的な宿泊施設が多かった

(単位: %)

－ 1位: 沖縄県、2位: 千葉県、3位: 大分県

リゾートホテル人気の高い沖縄県が第1位。

次いで、昨年4位からランクアップした千葉県、温泉と伝統ある旅館の人気の高い大分県が続く。

第1位の沖縄県に次いで、テーマパーク付近のホテルが支持された第2位の千葉県、露天風呂や温泉のある宿があげられた第3位大分県と続いた。また、第10位にランクインした和歌山県は、昨年の第17位から順位を上げた。

2009年 順位	
全体平均	36.6
1位 沖縄県	55.6
2位 千葉県	51.5
3位 大分県	49.7
4位 熊本県	45.3
5位 長崎県	44.0
6位 石川県	43.1
7位 北海道	41.9
8位 鹿児島県	41.4
9位 神奈川県	41.2
10位 和歌山県	40.5

2008年 順位	
全体平均	36.5
1位 沖縄県	54.3
2位 大分県	50.8
3位 熊本県	49.9
4位 千葉県	47.3
5位 長崎県	47.0
6位 岐阜県	45.1
7位 石川県	41.6
8位 北海道	40.5
8位 栃木県	40.5
10位 京都府	40.4

■地元の人々のホスピタリティを感じた

(単位: %)

－ 1位: 沖縄県、2位: 鹿児島県、3位: 秋田県

秋田県がポイントを上げ、昨年10位から3位にランクアップ。沖縄県が4年連続1位で、2年連続でポイントを上げている。

昨年と同じく第1位の沖縄県が、第2位以下を15ポイント以上離す結果となった。昨年と同様の傾向で、関西以西の西日本から数多くトップ10入りしている。第9位新潟県は昨年28.9%から今年30.9%を獲得してランクインした。

※本設問では、フリーコメントの回答を設定していない。

2009年 順位	
全体平均	25.5
1位 沖縄県	56.4
2位 鹿児島県	40.6
3位 秋田県	37.9
4位 高知県	35.3
5位 宮城県	34.6
6位 京都府	31.6
7位 青森県	31.5
7位 熊本県	31.5
9位 新潟県	30.9
10位 奈良県	30.8

2008年 順位	
全体平均	25.7
1位 沖縄県	53.4
2位 鹿児島県	38.8
3位 宮城県	38.3
4位 高知県	36.4
5位 青森県	34.8
6位 奈良県	34.0
7位 山形県	33.7
7位 長崎県	33.7
9位 京都府	33.0
10位 秋田県	32.7
10位 熊本県	32.7

■子供が楽しめるスポットや施設が多かった

(単位:%)

ー 1位:千葉県、2位:沖縄県、3位:和歌山県

「東京ディズニーリゾート」を擁する千葉県が、断トツの第1位。次いで、「沖縄美ら海水族館」が人気の沖縄県、「アドベンチャーワールド」や「サファリパーク」があげられた和歌山県と続く。

全体の傾向として、テーマパークや水族館・動物園、自然体験ができる施設などが高い支持を集める結果となった。

第1位は千葉県。第2位沖縄県を21.3ポイント離しているものの、昨年と比較すると、沖縄県のポイントがアップし、若干だが差が縮まった形となった。

2009年 順位	
全体平均	21.4
1位 千葉県	64.5
2位 沖縄県	43.2
3位 和歌山県	34.9
4位 三重県	33.0
5位 大阪府	29.0
6位 栃木県	27.7
7位 長崎県	27.0
8位 熊本県	25.0
9位 東京都	24.2
10位 山梨県	23.7

2008年 順位	
全体平均	21.1
1位 千葉県	60.9
2位 沖縄県	37.3
3位 三重県	35.6
4位 和歌山県	32.0
5位 大阪府	31.6
6位 栃木県	26.7
7位 長崎県	26.0
8位 山梨県	25.7
9位 熊本県	25.2
10位 東京都	24.2

■若者が楽しめるスポットや施設が多かった

(単位:%)

ー 1位:千葉県、2位:沖縄県、3位:大阪府

上位の顔ぶれは昨年とほぼ変わらず。テーマパークと都市観光が強いエリアが上位にランクイン。

全体の傾向として、テーマパーク、水族館・動物園、買い物や食べ歩き目的の街や施設をあげる声が目立つ結果となった。野球場やスポーツ（スキー、マリンスポーツなど）と回答する声も多い。

第1位の千葉県は、「東京ディズニーリゾート」が圧倒的な人気だが、第2位の沖縄県、第3位の大阪府は、テーマパークに次いで買い物や街歩き目的の回答が多い。

2009年 順位	
全体平均	26.4
1位 千葉県	61.0
2位 沖縄県	58.4
3位 大阪府	47.1
4位 東京都	46.0
5位 福岡県	38.0
6位 神奈川県	31.7
7位 兵庫県	31.0
8位 長崎県	28.0
9位 三重県	26.9
10位 長野県	25.2
10位 和歌山県	25.2

2008年 順位	
全体平均	25.9
1位 千葉県	56.7
2位 沖縄県	54.8
3位 大阪府	48.6
4位 東京都	45.6
5位 福岡県	43.0
6位 長崎県	29.8
7位 神奈川県	29.3
8位 兵庫県	27.8
9位 北海道	26.5
10位 宮城県	25.4

■大人が楽しめるスポットや施設が多かった

(単位:%)

ー 1位:沖縄県、2位:千葉県、3位:京都府

沖縄県が昨年3位から第1位にランクアップ。「沖縄美ら海水族館」「首里城」「国際通り」などがあげられた。次いで千葉県、「寺院」「神社仏閣」や「祇園」の人気が高い京都府と続く。

昨年から引き続き、全体の傾向として“子供が楽しめる...”と比べて、多岐にわたるスポットや施設があげられる結果となった。名所・旧跡や自然園、テーマパーク、美術館、温泉、買い物などの回答が目立つ。第10位の三重県は、昨年第22位からランクアップ。伊勢神宮、おかげ横丁などが多数あげられていた。

2009年 順位	
全体平均	41.3
1位 沖縄県	59.3
2位 千葉県	59.2
3位 京都府	58.5
4位 奈良県	54.5
5位 東京都	50.6
6位 大阪府	47.8
7位 神奈川県	47.3
8位 福岡県	45.7
9位 長崎県	44.3
10位 三重県	43.7

2008年 順位	
全体平均	40.0
1位 千葉県	57.1
2位 京都府	56.7
3位 沖縄県	56.4
4位 東京都	50.0
5位 大阪府	49.0
6位 長崎県	46.8
7位 奈良県	46.7
8位 福岡県	44.3
9位 神奈川県	43.4
9位 兵庫県	43.4

<ランキングの算出方法> ※集計は延べ宿泊旅行件数がベース

- ①各テーマに関し、訪問した都道府県の評価を「そう思う」「ややそう思う」「普通」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5段階から選択。
- ②「そう思う」「ややそう思う」を合計した割合が多い順に都道府県をランキングしている。

<コメントの回答方法>

「そう思う」「ややそう思う」と回答した設問に対して、任意でフリーコメントを記入させている。

※対象設問:「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」「魅力のある特産品や土産物が多かった」「魅力的な宿泊施設が多かった」「子供が楽しめるスポットや施設が多かった」「若者が楽しめるスポットや施設が多かった」「大人が楽しめるスポットや施設が多かった」

<参考>宿泊旅行の目的

※ベース:延べ宿泊旅行件数(複数回答)。上位10項目(その他以外)抜粋

(%)

	[09年]	[08年]
温泉や露天風呂	36.0	36.1
地元の美味しいものを食べる	34.4	30.2
名所、旧跡の観光	29.7	28.1
宿でのんびり過ごす	28.7	28.0
まちあるき、都市散策	16.9	15.8
友人・親戚を訪ねる	14.1	14.1
テーマパーク (遊園地、動物園、博物館など)	13.6	14.0
買い物、アウトレット	11.4	10.6
花見や紅葉などの自然鑑賞	10.7	10.9
ドライブ・ツーリング	6.3	7.2

※08年「地元の美味しいものを食べに行く」→09年「地元の美味しいものを食べる」と選択肢変更